

## 基礎工ハノイオフィス



海外交流

畚田博一\*

KISOKO-HANOI Office for Academic Exchange

Key Words : HANOI, Green Innovation, Academic Exchange

2012年10月25日～11月2日の期間、ハノイおよびホーチミンを訪問した。前半は、ハノイ物質科学研究所にて第7回日越学生交流セミナーを開催した。今回は、基礎工からは学生13名（ベトナムからの留学生2名を含む）、岡村研究科長、河原評議員をはじめ教員7名、事務職員2名が参加した。到着と同時に、いつものようにあたたかい歓迎を受け、最初は緊張していた学生も、懇親会などを通し、しだいに打ち解け、討論テーマ「Engineering Science for Green Innovation」についても熱心に議論を重ねていた。

教員は、VNU University of Engineering and



写真1. 基礎工の説明と質疑応答。



\*Hirokazu TADA

1962年5月生  
東京大学大学院理学系研究科化学専攻  
博士課程中退（1989年）  
現在、大阪大学 基礎工学研究科 教授  
博士（理学） 分子エレクトロニクス  
TEL：06-6850-6430  
FAX：06-6850-6433  
E-mail：tada@molelectronics.jp

Technology (略称 UET)、Hanoi University of Education (HUE)、Hanoi University of Science and Technology (HUST)、日本大使館、JICA ハノイオフィスを訪問した。UETの学長 Nguyen Ngoc Binh 教授は、大阪大学理学研究科で学位を取得しており、大阪大学との教育・研究交流にも積極的である。今回は、特にナノテクノロジー研究所の学生約30名と面談の機会をいただいた。多くの学生は英語も堪能で、研究への動機もしっかりとしていた。HUEは、教員の養成を目的とする大学で、本研究科の博士課程修了生が講師として勤務しており、その方の案内で化学教室などを見学した。卒業生との夕食会も企画いただき、ネットワークが広がっている印象を受けた。

今回の滞在の目的のひとつは、こうした交流の拠点となるオフィスを開設することであった。基礎工とベトナム、特にハノイのアカデミアとの交流の歴史は、2001年に当時の研究科長冷水教授がハノイ、フエ、ホーチミンを訪問し、関係機関と交流について討論を重ね、その年の12月に、ベトナム科学技術アカデミー（VAST）物質科学研究所（IMS）との間で部局間協定を締結したことにはじまる。翌年2002年12月には9名の学生がハノイを訪問し、交流が本格化した。その後も、IMSが中心となり、上記の学生交流セミナーを開催するとともに、基礎工学研究科との間で修士課程ジョイントプログラムおよび博士課程サンドイッチプログラムは推進され、国費、私費をあわせ、多くの学生が英語コースに入学している。卒業生も着実に増え、ベトナム本国あるいは欧米にて活躍されている。

昨年度、IMS訪問時に、今後の交流をより活発に、より強固なものにするため、活動の拠点としてのオフィスの設置の重要性が議論され、今回の訪問で、VASTならびにIMSの格別の配慮により実現した。



写真2. 基礎工ハノイオフィスの開所パーティー（左）と部屋の前に掲示された表札。

部屋は、IMSの3階、所長室の並びにある。およそ30平米で、オフィスとしては十分な広さである。写真は、オフィスの設置を祝うために急遽企画いただいたパーティーのようすである。一番右が、現所長の Liem 教授、その隣が前所長の Hieu 名誉教授である。表札も作成いただいた。我々の意向も取り入れ、部屋の名称は「KISOKO-HANOI OFFICE FOR ACADEMIC EXCHANGE」としていただいた。

この部屋は、教員が交流活動のために訪問した際のオフィスとして、あるいは、大阪大学ならびに基礎工への留学を希望する学生さんへの情報提供と相談の場として、また、卒業生の交流の場として使うことが計画されている。今後、このオフィスが拠点となり、日越の交流がさらに発展することを期待したい。

